

読書推進運動



公益社団法人

読書推進運動協議会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル 6階

TEL 03(5244)5270

FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘

編集人 片岡 伸子

No.663

★伊藤忠記念財団子ども文庫助成先決定(3・4頁)

定価 60円

会員の購読料は
会費の中に含まれる

読書の入り口としての教科書

教科書、学習参考書を読み解く

公益社団法人 読書推進運動協議会 理事
一般社団法人 教科書協会 会長ほしの やすなり
星野泰也

本にはいろいろなジャンルのものがありますが、私たちが必ず手にする本といえば、それは学校で使う教科書といえるのではないのでしょうか。小学校に入学すると同時に、子どもたちは袋に入った教科書を手にします。はるか昔の記憶となりますが、私自身、何冊もの教科書を手にして、なんとなくうれしく思ったことを、今でも覚えています。

その後、教科書とは別、漢字の練習帳や計算ドリルといった教材も手にします。それらは中学、高校に上がるにしたがい、分厚い学習参考書やカラフルな資料集に変わったりもしますが、教科書などの教材が、長い間、子どもたちにとって身近な存在であることに変わりはありません。

教科書や学習参考書といった学習教材は、子どもたちが身につけるべきことがらを順序立てて記したのですが、普通の本とは少し様子が異なります。数学ならば、さしずめ「登場人物」は定義や定理となりますが、その振る舞いについて多くのことが書かれているとはかぎりません。読者は「登場人物」の役割を考えながら、論理的に物語の展開を読み解いていくことになりま

特に教科書は、すべての子どもたちがもれなく利用する本であり、教育の基盤を支える重要な役割を担っています。ですから、間違った記載や、読み手がいかようにでも解釈できる曖昧な表現があつてはいけません。寸毫の齟齬も許さないとまでは言わないものの、ものごとを正しく伝えること、このことは私ども発行者に課せられた使命ともいえるものです。

とはいえ、かた苦しい説明だけでは、子どもたちも興味をもつてそのページを開いてはくれません。そこには、子どもたちが主体的に学びたいと思うような工夫が必要です。理解を助ける美しい写真や図版などのほたす役割も重要になります。

学習を進めるうえで、社会との関わりを明らかにして、学ぶことの意義を感じ取ることも大切です。複雑な現代を生き抜くために、多様な知識を組みあわせて解決する課題や、答えがただひとつに定まらない課題なども、教科書には掲載されています。教科書や学習参考書で身につけた力は、単なる知識や教養としてだけではなく、生きる力として役立ちます。教科書は学習指導要領にそつて、各教科、科目に分かれた形で作成されますが、それらにはいずれも「リベラルアーツ」を学ぶために資する存在としての意が込められています。

最近の教科書や学習参考書には、関係する各種情報をインターネットを利用して参照することができるといった、これまでにはない機能も備わっています。機会があれば、お子さんやお孫さんが使っている教科書を手にとっていただき、昔の教科書から大きく変わったことを確認していただければと思います。

〈2022年度〉

伊藤忠記念財団

子ども文庫助成事業

助成贈呈先決定

公益社団法人読書推進運動協議会が公益財団法人伊藤忠記念財団から委託を受け、募集の告知、書面整理などを行っている「子ども文庫助成事業」の2022年度助成贈呈先が決定しました(計101件)。

本年度の応募件数は、子どもの本購入費助成97件(病院・施設子ども読書活動費助成含む)、子どもの本100冊助成40件の計137件。

この助成事業は、伊藤忠記念財団が子ども読書についての啓発、指導に関する民間の有益な活動の目的達成のために行っており、今年度で第48回、助成件数は2610件となりました。

伊藤忠記念財団では2023年度も同助成を実施します。応募期間は、4月～6月の予定です。応募要項は3月、伊藤忠記念財団および読書推進運動協議会ホームページに掲載予定です。送付をご希望の方はお申しつけください。

なお、各道府県読書推進運動協議会、および各都道府県立中央図書館へは、当協議会の依頼状を同封したうえで伊藤忠記念財団よりお送りいたします。

書館へは、当協議会の依頼状を同封したうえで伊藤忠記念財団よりお送りいたします。

◆子どもの本購入費助成先一覧(58件)

児童書・絵本などの図書購入費用、紙芝居・人形劇など読書啓発活動につながる実演作品の購入費用として一律30万円を助成。半額の15万円までを読書啓発に関連する講演会・研修会の開催費や参加費、備品の購入(書籍管理備品、実演用備品など)に使用できます。また、同財団が指定する団体からの講師派遣研修参加に助成金の全額を使用できるプログラムもあります。

子どもたちの読書啓発を行って

いる民間の文庫や実演団体、連絡会などが対象(営利法人、大規模法人、公共機関などは対象外)。実質的に草の根運動と見なされる個人・団体であること、3年以上の活動歴があり、今後も継続した活動が見込まれることが必要です。

北海道 おはなしサークル
かくれんぼ
有珠山文庫
北海道 フリユリリング絵本部
「ファンタジア」

岩手県 奥中山こひつじ文庫
茨城県 銀河ステーション文庫
栃木県 足利の語りの会
「おはなしコロリン」
群馬県 萌えぎの会

埼玉県 読書ボランティア連絡会
埼玉県 どんぐり文庫
埼玉県 ともだち文庫
東京都 おはなしポケット
東京都 おはなしポケット
東京都 特定非営利活動法人
読み聞かせネットワーク
ヒップ

東京都 はとさん文庫
東京都 おひさま文庫
神奈川県 バッパセブン
神奈川県 おはなし文庫
神奈川県 いずみ文庫
神奈川県 にじろえほん箱
神奈川県 図書ボランティア
神奈川県 はらべこあおむし

神奈川県 絵本カフェ・チョココ
新潟県 新潟アニメーション研究会
富山県 子ども文庫やかまし村
石川県 山中おはなしの会
福井県 福井おはなしの会
福井県 越前らくひょうしぎの会
山梨県 特定非営利活動法人
山梨県 子ども図書館
山梨県 パップンピットの森クラブ

山梨県 そのおき子ども文庫
長野県 やまぶきあそびの広場
岐阜県 八星文庫
静岡県



奥中山こひつじ文庫
(岩手県)

愛知県 子どもと女性の
イスラームの会
愛知県 家庭文庫どんぐり小屋
愛知県 めんどり文庫
愛知県 この本だいすきの会
愛知支部
滋賀県 山中比叡平子ども図書館
京都府 ことえほん
京都府 おはなしのこぼこ
大阪府 NPO法人 おおきか
大阪府 こども多文化センター
大阪府 みのり文庫ちえの環
大阪府 枚方おはなしを語る会
兵庫県 日本基督教団 神和教会
「もみのき文庫」

島根県 持田公民館親子読書
ボランティアグループ
広島県 千田子ども文庫
広島県 小谷なかよし文庫
山口県 たまてばこ
香川県 高松こどもの本の会
香川県 だんだんだんこ
高知県 親オニの会

福岡県 お話の森文庫
福岡県 おもやい広場
「くまさん文庫」
佐賀県 読み聞かせボランティア
ゆめのたね

熊本県 室園教会こぐま文庫
宮崎県 紙芝居まねきねこの会
鹿児島県 おはなしポケット
鹿児島県 那間つ子ゆみんちゅ隊
沖縄県 なのは市民協議会
沖縄県 NPO法人
にじのはしファン

アイランド みどりの森文庫
オーストラリア アデレード
こども文庫

◆病院・施設子ども読書活動費助成先一覧(20件)

子どもの本購入費助成と同様に、図書購入費用および読書啓発活動につながる実演のための購入費用として一律30万円を助成。障がいを持つ子どもたちに対する読書支援機器などの購入、および、布の絵本や点字絵本などバリアフリー図書作成のための費用も含まれます。こちらも、助成額の半額15万円までを、講習会の開催費や参加費および備品の購入に使用することができます。

病院、障がい児施設、養護施設などの子どもたちに対して、読書

啓発活動を行っている民間の団体または個人に加え、2021年度より、公立の特別支援学校も対象となつていきます。購入費助成同様、3年以上の活動歴があり、今後も継続した活動が見込まれることが必要です。

福島県 社会福祉法人 南町保育園
多機能型事業所はるか、第2はるか
東京都 特定非営利活動法人 One step 音楽スタジオ
東京都 特定非営利活動法人 しゅわえもん
東京都 特定非営利活動法人 えがおさんさん
新潟県 ファミリーホームいからし
新潟県 新潟県立がんセンター
新潟県 新潟病院
福井県 あかね文庫お話し会
社会福祉法人
越前自立支援協会
児童養護施設 一陽
愛知県 社会福祉法人 知多学園 クローバーライト
京都府 NPO 法人 i-care kids 京都
大阪府 読み聞かせボランティア「ぼんぼこぼん」
大阪府 八尾で絵の本ひろば
広げよ会

兵庫県 特定非営利活動法人 ささゆり会

栃木県 栃木県立

栃木県 のざわ特別支援学校

栃木県 栃木県立盲学校

栃木県 栃木県立那須特別支援学校

愛知県 愛知県立岡崎聾学校

愛知県 愛知県立

愛知県 瀬戸つばき特別支援学校

兵庫県 加古川市立加古川養護学校

岡山県 岡山県立岡山東支援学校

長崎県 長崎県立大村特別支援学校

◆子どもの本100冊 助成先一覧(23件)

対象年齢別に「小学校低学年向け」「小学校中学年向け」「小学校高学年向け」「乳幼児向け」の4セットを用意。セットはそれぞれ、同財団が選んだ100冊の図書で構成されています。助成対象は「購入費助成」「病院・施設子ども読書活動費助成」と共通。活動歴は問いませんが、今後も継続した活動が見込まれることが必要です。
希望する対象年齢向けセットの一部(40冊を上限とする)を、ほかの年齢向けセットと2000年以降に出版された図書を中心に選ばれた150冊リストの図書と入れ替えることが可能となっています。

《小学校低学年向け》5件

埼玉県 特定非営利活動法人 新摩子育てネットワーク

埼玉県 おはなし会「パンプキン」

千葉県 読み聞かせボランティア

広島県 くすの本文庫

アメリカ ニューオリンズ

《小学校中学年向け》7件

北海道 Little Free Library and Museum ちいさな帆

北海道 津別読み聞かせの会

「おはなしポケット」

愛知県 特定非営利活動法人 ハッピーラボ

大阪府 おもちゃ図書館

奈良県 泉北じゃがいも広場

和歌山県 ねむの花文庫

イギリス たまご絵本館

《小学校高学年向け》4件

大阪府 特定非営利活動法人 ゆらゆら

京都府 てのひら文庫

愛媛県 西条ひかりの子文庫

大分県 あおぞら文庫

カナダ Japanese Community Volunteers Association (通称隣組)

◆子ども文庫功労賞

「子ども文庫助成」プログラムのひとつ。子ども文庫を永年(20年以上)にわたり運営してきた個人で、子どもの読書啓発活動に貢献してきた方を顕彰する賞です。1984年の第1回以来、昨年までに86名に贈られています。本年の受賞者は、春林公子さん(千葉県千葉市)、大原寿美さん(高知県高知市)の2名です。
春林さんは、1975年に千葉市の団地内に設立された地域文庫「ガーデン文庫」の中心人物として、おはなし会や貸出などの活動を長年続けています。千葉県立中央図書館司書より選書についてのアドバイスを受けて文庫の蔵書を見直し、訪れる子どもたち一人ひとりに適した図書をそろえ、質の高い文庫を作りあげました。千葉市文庫連絡協議会にも1978年の立ち上げから活動に加わり、3回代表を務め、地域の子どもの読

書啓発に深く貢献。文庫利用者がベトナムに文庫を新設するなど、後継者育成にも影響を与えています。

大原さんは1971年設立の「高知こども劇場」で事務局長を務めつつ、近所の文庫に呼びかけて「こどもの本の読書会」を立ち上げました。1994年、高知県立図書館の移転問題をきっかけに、高知県文化推進委員の立場から「こどもの図書館設立」を県議会に提案し、「高知こどもの図書館をつくる会」を発足させ、1999年12月の「高知こどもの図書館」開館へとつなげました。同図書館では館長、副理事長、理事長を歴任し、現在も理事として運営に関わりながら子どもたちに本を手渡し続けています。
贈呈式は3月6日に、東京都港区の伊藤忠商事ビルで開催される予定です。



この本だいすきの会
愛知支部(愛知県)

■新年名刺交換会

3年ぶりの開催で
出版関係者の交流を深める

1月6日(金)、東京都千代田区の出版クラブビルで、出版関係者が一堂に会する「新年名刺交換会」(主催：日本出版クラブ)が3年ぶりに開催された。参加者は250人。恒例の獅子舞こそなかったものの、マスク着用ながらプツフェ形式で飲食が供され、にぎやかな会となった。

野間省伸・日本出版クラブ会長は、乾杯の挨拶で「今年、日本出

版クラブは創立70周年を迎える。『出版界の総親和』という、設立時の理念に立ち返り、流通改革・海賊版対策・著作権問題など、個社の努力だけでは解決できない課題に、業界が一体となって取り組んでまいりたい」と述べた。

当日配布された出版クラブ会報では、出版5団体の各代表が、読者や著作者にとってもメリットのある出版環境整備、活力あ



乾杯の挨拶をする野間省伸
日本出版クラブ会長

る雑誌づくりと販売環境の整備「2024年問題」に対応する出版流通改革、街の書店の存続に向けた施策など、課題解決のためのさまざまな取り組みを開陳した。

■文部科学省「子ども読書の日」啓発ポスター

読むこと、聞くことで
本を、相手を、理解する力を！

今年の「子ども読書の日」
ポスター

文部科学省は、全国の公共図書館、小中高等学校、幼稚園などに配布する4月23日「子ども読書の日」啓発ポスターを制作しました。3月下旬には日本出版取次協会の協力で、読書推進運動協議会の「子どもの読書週間」ポスターとあわせ、書店へも配布される予定です。今年のポスターも、とよたかずひこさんの描きおろしイラスト。キャッチフレーズ「ココロに聞ける♪本のこえ」には、本をじっくり読むことの豊かさ、読み聞かせやストーリーテリングのあたたかさ、子どもたちの生きる力となるようにとの思いがあります。

■第57回新風賞贈賞式開催

高齢者にアピールした
『80歳の壁』が受賞

各地域を代表する書店のネットワークである書店新風会主催の「第57回書店新風賞」贈賞式が、1月11日(水)、東京新宿区のハイアットリージェンシー東京で行われた。

新風賞は会員書店の書店員(今回は計578人)がひとり3冊ずつ候補作を推薦し、上位10冊から選ばれる。

今回、新風賞を受賞したのは、和田秀樹著『80歳の壁』(幻冬舎新書)。精神科医である和田氏は、同書で、80歳の壁を乗り越え、元気に暮らす最強の方法は「嫌なこ



書店新風会 大垣会長と和田秀樹
さん、出版社代表の記念撮影

とを我慢せず、好きなことだけをする」と提案。「食べたいものを食べる」「血圧・血糖値は下げなくていい」「ボケることは怖くない」などの具体的なアドバイスをおこなっている。その結果、後期高齢者となった「団塊の世代」の支持を集め、昨年末で57万5千部まで売り伸ばし、年間ベストセラー総合1位となった。

書店新風会の大垣守弘会長から賞を贈呈された和田氏は、『80歳の壁』を出したことは社会的な意義があった。この本が売れて、書店や出版社には高齢者は読者層として認知された。高齢者の消費が振るわないのは、(メディアやメーカー)魅力的な商品を出していないから。高齢者の81%は自立して生活している。今年は高齢者が消費者であるとかってもらえる活動をした。と抱負を述べた。

和田氏の著書は、ほかにも『70歳が老化の分かれ道』(詩想社新書)、『60代から心と体がラクになる生き方』(朝日新書)がベストセラーとなっている。

■第38回「梓会出版文化賞」

少数精鋭、こだわりの
出版社が受賞

1月12日(木)、「第38回 梓会出版文化賞」「第19回 出版梓会新聞社学芸文化賞」贈呈式が、関係者のみで開催された。

この賞は、専門書を中心とする出版社10社が加盟する「一般社団法人 出版梓会」が主催。選考委員は五十嵐太郎、小野正嗣、加藤陽子、斎藤美奈子、竹内薫の5氏。今回の「出版文化賞」は、書肆侃侃房が受賞した。同社は2002年設立、従業員8名。福岡市を拠点として、主に文芸書を出版している。短歌関連書や歌集の刊行、地の利を活かした韓国・



今回の受賞者のみなさんと選考委員

台湾の現代文学の紹介、ヴァージニア・ウルフやジョイスの翻訳で知られる詩人『左川ちか全集』などの出版活動が評価された。

同「特別賞」は、タバックスに贈られた。同社は2012年設立、従業員1名の小さな出版社。仕事やフェミニズムなどのテーマを、漫画なども取り入れ、わかりやすく、手に取りやすい本にして刊行している。

新聞社・通信社の文化部長が選ぶ「第19回 出版梓会新聞社学芸文化賞」は千倉書房が受賞した。同社は1929年設立、従業員10名。政治や思想、宗教などに関する硬派な出版物で知られる同社だが、島田裕巳著『日本の宗教と政治 ふたつの「国体」をめぐる』の刊行が時宜を得たものとして支持を集めた。

同「特別賞」はプロンズ新社に決定した。同社は1983年設立、従業員16名。ウクライナの絵本作家が子どもたちに向けて描いた『戦争が町にやってくる』の刊行などが評価を受けた。

■JBBY子どもの本の翻訳フォーラム

その国ならではの特徴と
国を超えた類似性を昔話で知る

一般社団法人 日本国際児童図書評議会(JBBY)は、1月29日(日)に「JBBY子どもの本の翻訳フォーラム『昔話を訳す楽しさ』」をオンライン形式で開催した。

パネリストは愛申恵子さん(ベトナム語翻訳家)、かみやにじさん(韓国語翻訳家)、木村有子さん(チェコ語翻訳家)、さくまゆみこさん(英語翻訳家)、柴なほ

さん(ハンガリー文学研究者)、長野徹さん(イタリア語翻訳家)の6人。それぞれ、専門とする国(さくまさんはアフリカの昔話を担当)の代表的な昔話や、特徴的なモチーフを紹介した。

各国の地理的、歴史的要因が色濃く反映された話がある一方、『シンデレラ』に代表される「継子いじめ」モチーフの物語がよく似た

形で多くの国で語られていることより、各国の昔話を知ることが、多様性と国境を越えた類似性を実感できる、他者への理解と共感へつながると、パネリストの意見は一致。昔話集の出版や、実演現場での読み聞かせ・ストーリーテリングへの期待が語られた。

また、それぞれの言語のリズムを生かした翻訳のため、何度も日本語訳を声に出して読み、楽しいと思えるリズムを整えていく、各国のユニークな比喩はなるべくそのまま訳して注釈をつけるなどの工夫も紹介された。

■日本YA作家クラブ

YAの魅力を知ってほしい！
作家有志が情報発信

YA作品作家と翻訳家の有志による「日本YA作家クラブ」は、2023年1月、ニューズレター第9号を発行した。

日本YA作家クラブは、YA作品やYA関連情報を広く提供することを目的としている。年2回ニューズレターを発行し、希望する公共図書館や学校図書館、教育・福祉関係機関、書店などに紙またはPDFで配布している。

第9号は、連続企画「作家・翻訳家のお気に入り調査隊」に森川成美さんとこまつあやさんが登場。最新情報とともに、作家の意外な一面を知ることができる。

購読の申し込みは、日本YA作家クラブ公式サイトで可能。PDF版は図書館・教育・福祉・出版等に関わる方で、ニューズレターを活用してくださる立場の担当者を対象としている。紙版の希望者



ニューズレター
9号



日本YAクラブ
公式サイト



日本YAクラブ
特設ブログ

は、事前の読者登録と送料+カンパが必要。バックナンバーは公式サイトで閲覧できる。

日本YA作家クラブの特設ブログでは、会員インタビューも随時公開されており、こちらも創作の裏側などにふれることができる。

優良読書グループの歩み (2)

2022年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

図書館友の会 えほんひろば

代表者 中嶋加代子

栃木県矢板市

〈推薦〉
栃木県読書推進運動協議会

1980年に図書館が矢板市に

開館した。開館を待ちわびた図書館を愛する人たちの集まりである「友の会」が、翌年1981年7

月に発足。本好きで、子どもたちに読書の喜びを体験させたいと考える20人が会員となり、月1回の館内奉仕として本と子どもたちをつなぐお手伝いはじめた。その

うちの6名で、同時に「おはなしひろば」を月1回土曜日の午後

に開催すると、小学生の子どもたちの参加が多くなった。そこで、乳

幼児対象の会をもうひとつ別に開催しようということになり、5年

後の1986年5月に「えほんひろば」が発足した。

このころには、ひろばだけに携

わる仲間も増え、10人ぐらいて、

月2回、第1と第2の火曜日10時

〜11時30分にえほんひろばを開催していた。当時は図書館に小さい子どもが本を楽しむ部屋がなく、

勤労青少年ホームが会場だった。ここには本がなく、2か月ごとに

図書館から150冊の本を移動図書として入れてもらっていた。

この会は親子が一緒に参加するため、バラエティーに富んだ内容で進められる。本読み、紙芝居、おはなし、手遊び、歌、昔遊び、「かごめかごめ」などのわらべ歌、

エプロンシアターやパネルシアター、リサイクル手作りおもちゃ、

おひなさまやお月見、七夕など伝承行事も行う。また、5分間読書

として親子で本に親しんでもらう時間を設けている。

「春のお楽しみ会」や「クリスマス会」などは人形劇サークルや図書館と共同開催している。本や読み聞かせの楽しさを薦め、同

時に図書館の本を紹介して、図書館の楽しさを知ってもらい、利用

につなげている。

たくさん本に囲まれて、子どもたちがとても楽しそうにお母さんやおばあちゃんと過ごしている様子は、微笑ましいものだ。私たちは、本の楽しさを伝える

ちよつとしたお手伝いをさせてもらっている。会の前後には、ピアノの先生で元会員さんに作っていただいたえほんひろばの歌を歌って、会を盛りあげている。

勤労青少年ホームの閉館につ

き、2019年からは図書館で行われていた「赤ちゃんのじかん」を「えほんひろば&赤ちゃんのじかん」として開催し、本を通じて

大人と子どもと一緒に楽しさを共有できるひろばとなっている。ま



寝そべって読み聞かせを楽しむ子どもたち

た、人形劇サークルと一緒に保育

所や高齢者サロンなどに出かけることもある。活動のお知らせには、図書館で広報やインターネットを活用したり、ポスターの掲載をしている。

活動できる後継者がなくなっているが、長年続けてこられたのは目を輝かせて参加してくれる子どもたちに力をもらっているからだと思う。今後も子どもと本のつながりとして、続けていきたい。

おはなしろうそくの会

代表者 田中久留美

鳥取県鳥取市

〈推薦〉
鳥取県読書推進運動協議会

「おはなしろうそくの会」は、鳥

取市立図書館のストーリーテリング研修講座第一期受講生有志によ

り2000年に発足し、今年で22年目を迎えました。

それ以来、2か月に一度、ストーリーテリングの勉強会が続けています。現在の会員は30代〜90代の20名です。

会員は、1年に1話、新しいおはなしを覚えよう、と目標を持ち、定例会で当番を決め、3〜4人の

鳥取の民話もしっかり学びおはなしの楽しさを届ける



会員がおはなしを語っています。そして、感想を述べあいながら、切磋琢磨しています。

今年度からは、『お話入門シリーズ』（松岡享子著）を用いて、スキルアップに努めています。

2003年から10年余り、今は亡き佐治谷ばなしの第一人者であつた中島嘉吉さん（享年99歳）に名誉会員として定例会に参加

していただき、日本三大こつけい話で有名な佐治谷ばなしをのべ話

も語っていただきました。また、鳥取の民話の語り部の中嶋須美子

さん（現在98歳）にも、この20年間ずっと語っていただいています。2010年、ひとりの学校司書の「子どもたちにストーリーテリ

ングを聴かせてあげたい」という熱い思いを受けて、はじめて小学校の授業でストーリーテリングをさせていただきました。今では9校の小学校に語りに行っています。

子どもたちは、目をキラキラ輝かせながら、語り手の話に聞き入っています。おもしろい楽しいおはなしのときには声をたてて笑い、ちょっと怖いおはなしのときには神妙な顔をしています。語りを通して子どもたちの豊かな表情を見ることができるとは、至福のときです。

他の活動として、鳥取市中央図書館主催の「親子でおはなしを楽しむ会」で小さな子どもたちにおはなしを語ったり、「ストーリーテリング研修講座」で講師として協力したりしています。会員のなかには、地域の図書館や小学校で語っている人もいます。

情報化社会のなかで、メディアを通しておはなしを聴くこともできますが、私たちは、これからも生の声で目と目をあわせ、心をこめておはなしを語り、子どもたちとおはなしの喜びをわかちあいたいと思います。

さざんか童夢

代表者 落合 洋子
宮崎県児湯郡川南町

（推薦）
宮崎県読書推進運動協議会

1999年川南町に文化ホールと図書館の複合施設が開館し、土地の名前から「トロントロンドーム」の愛称で呼ばれています。

その翌年発足した「さざんか童夢」は、町花である「さざんか」と「トロントロンドーム」から名づけられ、これまで23年間、川南町立図書館を拠点に読み聞かせを続けてきました。

読み聞かせのノウハウは、図書館や宮崎県主催の「読み聞かせボランティア養成講座」などで学び、そこで得た知識や技術を、毎月第4土曜日のおはなし会の前に行う研修時に、会員相互で共有するように努めています。

2003年から始まった「図書館まつり」では、町内の保育士たちのグループ「D51（でごいち）」と組んで人気を集めました。読み聞かせ、紙芝居、腹話術人形、人形劇と多彩な内容で、おはなし室は子どもたちでいっぱいでした。

ブックスタートの始まりにも関わりました。乳幼児の健診に来る親子に初めての本を案内したところ、絵本に表情を動かすわが子を見る、ママたちのうれしそうな笑顔が今でも忘れられません。

図書館での読み聞かせで苦労するのは、参加する子どもたちの年齢層が当日までわからないことです。赤ちゃん用絵本、小学生向けなど、前日の準備には手間がかかりますが、心楽しい作業です。一方、同じ年齢層の小学校での読み聞かせは選書にこだわります。うまくことが届いたかなというときは、うれしくなりません。メンバー同士で、学校での読み聞かせの発見や成果を話しあい、次へと生かすように努めています。

23年も経ち、私たちも高齢者になりましたが、少しばかり強みもできました。川南町が行う地域ふれあいサービス事業の担い手としており、その場で高齢者に対する読み聞かせ、紙芝居、語りなども行っています。川南町には、戦後全国から移住者が来られています。が、本や語りに誘われるようになつた子子ども時代のことを話す高齢者もおられます。

「さざんか童夢」は現在、会員数4名。仕事、転居、介護など会員

子どもたちと保護者の笑顔が町中に広がることを願って



の入れ替わりも多くありましたが、これからも育児中の父親や母親を通して、子どもたちがよい本に出会えるきっかけを作り、視覚だけでなく「語り」でも日本語の美しさやリズム、土地ことばの豊かさなどを、伝えていきたいと考えています。



ひらいてとじた
笑顔がふえた

『第55回 優良読書グループ』表彰団体追加の訂正

『読書推進運動』662号（2023年1月15日発行号）に掲載いたしました「第55回 優良読書グループ」表彰団体追加の内容に、誤りがございましたので、ここにお詫びし、訂正いたします。

表彰グループ名

東広島ストーリーテリングの会
むかしこつぷり（広島県）

グループ所在地

広島県北広島市

正

広島県東広島市

■第26回図書館を使った調べる学習コンクール

小学生から大人まで、
図書館で「調べた」成果を表彰

公益財団法人 図書館振興財団が主催する、第26回「図書館を使った調べる学習コンクール」の審査結果が発表された。11万3千を越える応募作品の中から、入賞32作品3団体ほか受賞作品が選ばれた。

調べる学習部門の文部科学大臣賞の受賞者は以下のとおり。

◇小学生の部(低学年)／東京都墨田区立錦糸小学校2年・長沼奏

■出版界のバリアフリー対応

さまざまな要因の読書困難と
対応するバリアフリー本を紹介

読書バリアフリーの実現に向けて、出版界が設置した「アクセシブル・ブックス・サポートセンター(ABS-C)準備会」が、「準備会レポート」の第2号を発行した。

今回は、「読書困難者数とバリアフリー本の種類と所蔵数」がテーマ。現在、視覚障がいや、発達性読み書き障がい、身体障がいによって読書に困難をかかえる人

達さん「ぼくのぬかづけものがたり」◇小学生の部(中学年)／秋田県秋田市立保戸野小学校3年・菊谷ありささん「想い！重い！をのせて北前船出航です！」◇小学生の部(高学年)／東京都江戸川区立篠崎小学校5年・三木颯祐さん「仮想プロジェクト『自分の家の前に駅を誘致する方法』」◇中学生の部／私立渋谷教育学園渋谷中学校3年・久郷悠人さん「無

農薬栽培への挑戦」◇高校生の部／私立海城高等学校1年・横川英輝さん「終末期医療における自己決定の尊重を実現するために——尊厳死法制化論争やACP導入を通して——」◇大人の部／北九州市立八幡図書館・富原まさ江さん、伊藤明子さん「忘れじの花々戦後の北九州に光を灯した少女歌劇の足跡」

●図書館振興財団
調べる学習コンクール結果

審査結果の詳細は同財団ホームページに掲載されている。
<https://www.toshokan.or.jp/winner-2022/>



「ABSC 準備会レポート」第2号

たちがどれだけのかを図表で明示し、あわせて、点字図書、音声図書、拡大写本、マルチメディアDAISYなど各種バリアフリー本の特徴と、公共図書館の所数をもとめている。

また、自動音声読み上げ(TTS)、DAISY、サビエ図書館の現状について、各部門の専門家へのインタビューで紹介している。「準備会レポート」は、PDFデータ

タでの提供のほか、1部100円(税込)で、購入可能。また、2月1日より、TTS対応の電子書籍として配信されている。今後、順をおって、DAISYや点字にも対応していく予定。

●ABSC準備会アドレス

info-absc@po.or.jp

TTSデータの配信は、以下のQRコードから



事務局報告(1月)

●編集部・事務局の
ひとこと

ひとこと

●この機関紙編集に携わって約20年。こうした仕事をしていますと「文章を書くのが好き」と思われることも多々ありますが、そんなことはありません。好きでも嫌いなものなく、「書くことを厭わない」といったところでしょうか。

●私の場合、テーマと字数が決まっていると、比較的ラクに書けます。本紙でしたら、本文記事です。この「ひとこと」は、字数は決まっていますが、テーマは毎月ひねり出さなくてはならず、本紙では苦労しているコーナーです。

●この3月まで、本紙の発行人でもあります事務局長の小塚が、役職を引退します。自分が苦労しているコーナーをお願いするののもどうかと思っていました。が、「就任したときに、ひとこと、挨拶してもよかったです」との本音(?)を、先日耳にしました。ですので、来月号の「ひとこと」は小塚が担当し、この4年間の読進協生活でお世話になったみなさまへ、ご挨拶申し上げます。また、4月号は、新任の事務局長が就任の挨拶を申し上げる予定です。

●5月号からは、また、私が担当です。2か月のお休みの間に、どれだけ書きたいこと、テーマが自分の中に蓄積できるか？久しぶりに他の人が書く「ひとこと」を読むことで、どんな刺激を受けるのか？今からワクワクしています。なお、小塚は役職は3月末で離れますが、事務局での勤務は6月末まで継続しますので、まだまだ、みなさま、よろしく願っています。(伸)